

あだち

JAPAN Tokyo Adachi tsuka

竹の塚

MAP

スタンプラリー付

スタンプを集めながら、竹の塚を歩こう。遊ぼう。

今、竹の塚がアツイ!!

「農」がブームだ。森ガールに続き、農ギャルも出現する昨今、東京で注目すべきスポットといえば、竹の塚である。

23区中面積3位、古くから米や野菜の栽培がさかんな足立区は、今も小松菜やツマモノ（料理を演出する香味野菜）栽培で有名だが、近年はそれだけにとどまらない。竹の塚エリアでは、採れたて野菜が買える直売所はもちろん、野菜たっぷりメニューが楽しめるカフェ、さらには農園付リゾートまで出現。「農」や「食」を通じた子ども向けイベントなども開催されている。スローフード志向が進む中、竹の塚は要チェックゾーンだ。

さらに竹の塚で「食」といえば「麺」。うどん店、そば店も多いが、近年メディアで新・聖地、実力派などと称される「ラーメン」は特に目が離せない。竹の塚散歩はぜひ、ラーメンでメタ。

歴史的には、その昔、大半が海の底だった東京東部の中でも比較的標高が高く、古墳時代から人が暮らした貴重な地域。しかも、今でも5世紀頃の遺跡や古墳が点在するほか、風情ある寺町も健在だ。また、農業の要となってきた用水路跡が姿を変えた親水公園など、歴史のかけらが魅力のポイントとなっている。

「水と緑の足立区」の中でも特に、公園や散歩道が充実しており、遠い昔に思いを馳せながらゆっくり歩いてみたいエリアである。



(写真)左から「縁側カフェ」入口、「舍人氷川神社」の彫刻、「武藤製麺所」こだわりの麺、「見沼代親水公園」

麺のまち

美味しい！安い！竹の塚ラーメン

メディアでも特集を組まれるくらいの「みんなの竹の塚」。個性あふれるラーメン店がこのエリアに集結している。ラーメンの系統が一つではなく、魚介だし、塩、醤油、細麺、つけ麺、なんでもござれ。厳選した素材と無添加魚介だし、手作り麺で有名な「武藤製麺所」のオーナー武藤真一さんによると「竹の塚は、家族連れが多く、都内にしては物件も安いので、ラーメン屋が集まっているのは」という。「この激戦区で生き残っているラーメン店は、どれも自信を持ってお勧めできます。しかも、同じ内容のラーメンが都



武藤製麺所／竹の塚 6-7-14

03-3850-4551

国産小麦にこだわった太さ5種類の自家製麺。塩と醤油の魚介と鶏の旨みスープと、濃厚な鶏白湯スープの2種類がある。添加物や保存料を使っていないので素材への安心感も抜群

心比べて200円安いです！ 本当にお得です」と武藤さん。竹の塚散歩の度に一店ずつ名店を制覇していくのも楽しいかも。



いこうファーム／伊興 2-17-8 ☎0120-975-257
祖父の代からの土地を譲り受けた新しい「貧農園」に挑戦する山崎有康さん

水と緑のまち「竹の塚」!

古墳時代から人が住んでいた豊かな「歴史」。かつて東京の食を支え、今なお直売所や貸し農園で新しい価値を産みだす「農業」。足立区一の「緑道」や「公園」が集まる空間に癒され、駅周辺の美味しい「麺」で舌づみ。竹の塚エリアの人・街・文化は、歩いて味わうことでみえてくる。

農のまち

ニューススタイル「貧農園」



「ワカミヤハイツ」のイベントルーム。人と人の新しい関わり方をつくりながら、より自由に、楽しく、安心安全に住み続ける暮らしを提案

この地域には新しい「農」の形を提案する農園がある。「いこうファーム」の山崎有康さんが、その人、「農でつながる快適な暮らしを提供したい」という想いから、祖父より引き継いだアパートを「ワカミヤハイツ」という農園付き住宅に改装。20代から40代の居住者がそれを農地を耕し、共に暮らす。また、ユーリーファーマーを作る農家だった自宅の農地を区切り、「コニティファーム」として貧農園も営んでいる。新しい「農」の形を見るならココ！

「食」にこだわる園芸農家

もう一軒、舍人駅のほど近くにあるのが「ファーム・ヨコタ」。ここは知る人ぞ知るヘルシーで美味しいランチの店だ。店を切り盛りするのは「かやまあややん」と呼ばれる横田かやさん。使用する野菜は息子さんが畑で作る旬の素材だ。関東大震災で罹災した浅草周辺の寺町が保木間掘を中心広がる伊興寺町。

寺町は関東大震災後に誕生した。舍人氷川神社で毎年12月に開かれる舍人文化市ではたくさんのゴボウが並ぶ(スタンプG)

歴史のまち

古代いち早く交易の拠点に

古代、関東平野が広く海に覆われ湿地が広がっていた時代、伊興地域は陸地の最先端に位置し、西日本各地と行き来が行われ、多くの人々が暮らす交易の拠点だった。

現在、伊興遺跡公園に展示されている古墳時代の出土品はこの地域がかつて、関東平野の「先進地」の一つであつたことを物語っている。

街道沿いに発達した舍人宿

江戸時代、日光街道の増田橋で分かれ、関東大震代・伊奈氏の赤山陣屋(現在の川口市)に向かう街道は「赤山道」と呼ばれ、多くの人馬が行き來した。

この街道沿いに発達したのが舍人宿

化市」に見ることができる。

今、その姿は地域の人々が開く「舍人宿

」で江戸時代には「六斎市(月に6回開かれる定期市)」が、明治時代以降は「「ボウ市」」が開かれにぎわった。

で、江戸時代には「六斎市(月に6回開かれる定期市)」が、明治時代以降は「「ボウ市」」が開かれにぎわった。

この姿は地域の人々が開く「舍人宿

」で江戸時代には「六斎市(月に6回開かれる定期市)」が、明治時代以降は「「ボウ市」」が開かれにぎわった。

今、その姿は地域の人々が開く「舍人宿

」で江戸時代には「六斎市(月に6回開かれる定期市)」が、明治時代以降は「「ボウ市」」が開かれにぎわった。

今、その姿は地域の人々が開く「舍人宿

」で江戸時代には「六斎市(月に6回開かれる定期市)」が、明治時代以降は「「ボウ市」」が開かれにぎわった。

今、その姿は地域の人々が開く「舍人宿

」で江戸時代には「六斎市(月に6回開かれる定期市)」が、明治時代以降は「「ボウ市」」が開かれにぎわった。

今、その姿は地域の人々が開く「舍人宿

」で江戸時代には「六斎市(月に6回開かれる定期市)」が、明治時代以降は「「ボウ市」」が開かれにぎわった。

緑のまち

足立の中でもさらに一番！

足立区は23区の中でも最も区立公園の面積が大きい。整備された美しい公園は、子どもからお年寄りまでみんな憩いの場所だ。さらにこの地域に多いのは、数々のユニークな公園。カンガルーやり蝶の温室でおなじみの生物園を有する元渕江公園や、広大な敷地を活かした都立舍人公園のほか個性的な児童遊園も多くのアミューズメントで丸一日遊んで楽しめる。見沼代親水公園をはじめとする緑道も多く、北西部をぐるっと周遊できる。しかも、駅舎や神社、寺が点在し、それらを巡りながら散策もおすすめだ。また、広い土地を活かしたスポーツ施設も充実。バッティングセンター、ゴルフ



元渕江公園(生物園)
保木間2-17-1

園内には釣りができる池もある。

生物園とあわせて楽しもう

都立舍人公園
舍人公園1-1

区内の広さを誇る公園。野球場やBBQ広場もある

江北北部緑道公園
谷本2-13~3-20

春と秋の年2回開花するという珍しい「十月桜」を中心に10種類

200本の桜が緑道を彩る

見沼代親水公園
古千木本町4-8-3 舎人4-5

緑道散歩が楽しめる細長い公園。子どもたちが遊べるじゃぶじゃぶ池もあり、夏場は小さい子とお母さんたちの憩いの場

店は、どれも自信を持ってお勧めできま

す。しかも、同じ内容のラーメンが都

市は、どれも自信を持ってお勧めできま

す。しかも、同じ内容のラーメンが都